



発行所
関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者
事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp

発行日
平成23年2月3日

Vol.53



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 関 誌

もくじ



●「2011年を迎えて」 斎藤昭一理事長	2
●新年賀詞交歓会を開催	3
●技術研修会を開催	4
●技能検定実技講習を実施	5
●組合員・賛助会員懇談会を開催	6
●3団体懇談会開く	7
●4団体協議会を開催	8
●日管連・第1回全国青年部会	9
●登録配管基幹技能者講習を開催	10
●「隨想」菅野泰行	10
●理事会 議事要旨	11
●配管技能コンテストに参画	11

2011年を迎えて

若者が希望のもてる業界へ



理事長 齊藤 昭一

年頭に当たり一言ご挨拶を申し上げます。平素は、組合へのご協力に対し心よりお礼申し上げますと共に、本年もご支援のほどをお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、不景気・不景気とささやかれる中、5月くらいには景気が上向く気配を見せていましたが、需要が力不足で追いつかず、また下降線をたどることとなりました。経済全体がリーマンショックの影響を未だ抜け出せない中、われわれ業界も事業仕分けや各企業の投資計画見直しによって影響を受けた方々も沢山おられたのではと心配しています。とはいえ、アメリカの景気もなんとか持ち直しそうだという感触もあり、株価も少しずつ上昇していくことを期待し、今年こそは不景気を一掃し、攻めの年に転じたいと思う所存でございます。

さて、昨年も申し上げましたが、現場就労年齢を65歳まで認めるゼネコン・サブコンが出てまいりました。大変な進歩だと喜んでいるところです。まだまだ高齢者とはいえない元気で健康な労働者が働き、残す

べき技術と物づくりに対する職人の気持ちを、次世代を担う若手に継承していくためには、業界が一丸となって早急に働く環境づくりを薦めていかなければいけません。

凄まじい速度で変化していく時代において、われわれ業界も例外ではありません。過去の延長線上で慣習にとらわれることなく、残さなければならない伝統と、見直さなければならないことを仕分け、より良い業界に革新しなければならないと強く感じています。

最後になりますが、われわれ業界も世間の不景気風によって大変冷え込んでいる所が多いことは事実ですが、将来を担う若者が楽しく働け、希望のもてる業界になるよう「登録配管基幹技能者認定制度」を創設してこれまでに1636名を、教育・訓練などを定期的に開催し認定してきました。

未来を創る多くの人が集まり、今後ますます業界が活性化することを祈願いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

—「卯年」の初夢—

こんな諺があります。「株（しゅ）を守つて兔を待つ」——古いやり方を続なことから困難を振り切つてトントン拍子に上昇することをたとえてこういいます。今年はぜひそうあってほしいものですが、ただ漫然としていては、そういうましくいません。

昔の方法にこだわっていても成果は上がらないのはいつの世も同じようです。また、「兎を見て狗（犬）を放つ」という諺もあります。獵人は兎を見つけてから犬を放せばよいということから、まだ何事もないのに早くから騒ぎ立てることはいらないといったとえにされ、裏返せば、手遅れに見える場合でもすぐ手を打てば、何とかなるということになります。諦めは禁物ですね。



「月の餅つき兎」、神話の「因幡の白兎」、イソップ寓話の「兎と亀の競争」など兎にまつわる話は多く、人間に馴染みの深い生き物です。卯年の今年は、昨年の年明けとは違って景気の上昇ムードがうかがえます。「兎の登り坂」という景気の良い言葉があります。

賑やかに新年賀詞交歓会

組合の新年賀詞交歓会は1月25日午後5時30分から大阪・中津駅近くのホテルコムズ大阪で開催し、賑やかに新年の挨拶を交わして2011年の門出を祝いました。

賀詞交歓会には関連団体などからの来賓を交え、組合員、賛助会員など合わせて50余名が出席し、庄司真之理事の司会で進められました。

年頭の挨拶に立った齊藤昭一理



奥浜氏の発声で乾杯

事長は「年が改まったが、景気のよくなるような話は聞かれない。かつての好景気のときには当業界も背伸びしようとする企業が多くなったが、近年は受注の現状維持で



庄司理事の司会で進行



カラオケで盛り上がる

手いっぱいの状況が続いている。しかし、下向き思考だけでは意気も上がらないので、皆さんも組合も何とか成長をめざして頑張りましょう」と呼びかけました。さらに、齊藤理事長は、「この厳しい業況の中、工事現場で事故を引き起こすと致命的な打撃をこうむる。細心の注意をして経営に当たってほしい」と述べました。

来賓紹介に続いて、大阪空気調

和衛生工業協会の城口俊雄副会長



年頭挨拶を述べる齊藤理事長



城口氏が来賓挨拶

和衛生工業協会の城口俊雄副会長が来賓を代表して挨拶。城口氏は、「関西配管組合さんは、1級配管技能士や登録配管基幹技能者などの育成に熱心に取り組まれており、敬意を表する。また、当協会が開催している配管技能コンテストにも絶大なるご協力をいただき、心からお礼を申し上げるとともに、今後なお一層のお力添えをたまわりたい」と述べました。

大阪府中小企業団体中央会の奥浜豊喜・労政調査部主幹の発声で乾杯したあと、賑やかに交歓しました。宴半ばには賛助会員が1社ずつ壇上で自社PRを展開するなど賑やかに交流し、また自慢の喉を披露するカラオケも交えて大いに盛り上りました。最後に、玉川義光副理事長の音頭で威勢よく大阪締めを行い、今年の健闘を誓いました。



玉川副理事長の音頭で威勢よく大阪締め

技術研修会を開催

手動ねじ切りを実習 配管工法の最新情報を学ぶ

組合は、11月27日に大阪府東大阪市のレッキス工業・花園工場で1級配管技能士検定に向けた技術研修を実施しました。今年度の技能士検定に備えて12月下旬開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予備研修を兼ねて手動ねじ切りの実習を行うとともに、配管工法の最新情報を学びました。

この研修会は毎回レッキス工業の全面的なバックアップにより実施され、今回で11回目。この日も土曜休業日にかかわらず幹部・技術スタッフが出勤して研修をサポートしてくれました。

研修会には27名が出席。開講あいさつで玉川義光・教育情報部会長（副理事長）は「早く1級技能士の資格を取得し、次の登録配管基幹技能者の資格をめざしてほしい。景況は厳しいが、皆さんの若い力を発揮されることで、魅力ある

業界にしよう」と激励しました。

研修会では、技能検定で欠かすことのできないパイプの「手動ねじ切り」に挑戦しました。レッキスの担当者からレクチャーを受けたあと、慣れない手つきで実習に臨みました。また、同工場隣接の「レッキスミュージアム」でパイ



三菱樹脂販売による商品・技術研修



レッキスミュージアム見学

スマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学びました。

このあと、三菱樹脂販売関西支店の直需営業部グループリーダー・津藤忠雄氏が同社新製品の紹介とともに、水道配水用ポリエチレン管の最新情報を講義しました。同氏は新製品の「樹脂管用ワンタッチ継手・エクセルイージーフィットClear」「水道直結型SP配管用HI透明停滯水防止継手」「ヒシパイプ・耐火VPα・耐火DVα」の商品・技術について詳しい説明を行いました。続いて、同支店の営業第2部グループリーダー・仁木泰章氏が配水用ポリエチレン管用融着工具の紹介をしました。

このあと、レッキスの西伸学氏と大西規夫氏が耐震性にすぐれた効果を発揮する同社オリジナルの「転造ねじ」の仕組みや用途の広がりなどを説明し、その加工実演を行いました。



円内は受講者を激励する玉川副理事長



転造ねじ切りによる耐久性の実演

技能検定対策の実技講習実施

南大阪高等職業専門校で2日間

平成22年度の1級配管技能検定（23年1月）へ向け、組合では12月18日（土曜）と19日（日曜日）の2日間、大阪府和泉市テクノステージの大坂府立南大阪高等職業技術専門校で実技講習を行いました。

この講習会は11月にレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、今回は33名の受検予定者が受講しました。講習は当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで昼食をはさんでびっしり行われました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、坂元日出海講師による「材料取り・ペーパーテスト」

の講習（座学）が行われ、配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題が実施されました。

午後は実技講習となり、玉川義光副理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川副理事長は「毎年、この実技講習の指導もき



「材料取り」の講習



玉川指導員による実技説明で
菅野、池成指導員が模範演技

め細かくして皆さんの期待に応えているので、全力で取り組んでほしい」と激励しました。作業手順の説明に続き、菅野泰行、池成信夫の両指導員が手動ねじ切りや溶接の模範実技・指導をそれぞれ行ったあと、実技講習に入りました。会場では、各指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は技能検定に欠かせない手動ねじ切りや接着接合、配管組立などに汗を流して取り組みました。

2日目は、午前中に実技講習を行ったあと、午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品作製に真剣な面持ちで臨んで仕上げ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出しました。



指導員のきめ細かな指導のもと真剣な表情で実技講習に取り組む



組合員・賛助会員懇談会を開催

市場動向・見通しで意見交換

組合員、賛助会員（メーカー・流通）の合同懇談会を12月2日に組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催しました。出席者は双方合わせて31人とこれまで一番多く、庄司真之理事の司会で市場動向と見通し、配管材料価格の動向、サブコンの材料支給問題などについて熱心に話し合いました。

懇談会では、まず、組合青年部の活動状況が小阪武司青年部会長から説明されました。青年部は、経営の第一線に立つメンバーも多く、行事への出席率はよくあります。月1回の例会勉強会、年1回の事業所見学会、日本配管工事業連合会全国青年部会への参画、組合ホームページの更新・維持管理、繁忙物件などの情報交換、親睦会の実施、配管工事業の

算が合わない」（京滋地区）、「大型案件が来年秋に動き出しが、それまでは厳しい受注情勢が続くのでは」（大阪）、「来年は大型物件も出ようが、値段は不透明」（大阪）、「施設物件が少ないので、マンション分野で食いつないでいる」（衛生工事）、「環境水処理の案件が多い。食品や印刷工場向けの受注も出ている」（メーカー）——など、それぞれの立場から状況が報告されました。意見を総合すると、「今年春先までは先が見えない状況だったが、今は何とか見通しが出てきた」、「春までと比べると、数段明るい」といった見方が大勢を占めました。

材料価格については、銅管価格が話題になり、すでに高騰し



挨拶する齊藤理事長

的に多く、今後、サブコン側へ「材料持ち」を呼びかけていくこととしました。これに関して、賛助会員（メーカー）に対し、組合員から「サブコンとわれわれ配管業とでは、支払い条件などで差はあるが、サブコンとわれわれに対する販売価格にあまり格差をつけないでほしい」などの要望意見が出されました。

最後に玉川義光副理事長が「組合員と賛助会員は列車のレール。同じ方向を向いて共存共栄の道を歩みたい」と閉会のあいさつを行い、懇談会を終えました。このあと、近くのグリルで懇親会を催し、忌憚のない意見を出し合うなど賑やかに交流しました。



一般社会へのPR——と多彩な事業を行っていることが報告されました。

続いて、市場動向と今後の見通しについて意見・情報交換しました。市場については、「サブコンの仕事はあるが、価格が低くて採

てているのに加え、今後も高騰気配で推移していくとの見解がメーカー側から出ました。

また、サブコンの「材料支給」については、継手だけの「材料持ち」のケースがあるが、いぜん「材料支給」が圧倒



懇親会場でも情報交換が図られた

第28回 3団体懇談会開く

基幹技能者の活用や配管機器の 盗難多発問題で意見・情報交換

当組合と近畿空調工事業協同組合（ダクト、理事長増田岳史氏）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷、会長細見義征氏）は、11月1日午後3時から5時まで当組合事務局近くの三栄ビル会議室で第28回懇談会を開催し登録基幹技能者の活用、60～65歳労働者の現場就労、配管工具・機器の現場盗難多発、産業廃棄物の各問題について話し合い、解決の糸口を探りました。

開催幹事団体を代表して増田・近畿空調工事業協同組合理事長があいさつしたあと、諸問題について意見・情報交換しました。出し合った情報を総合すると、登録基幹技能者については、ダクトは現在2年目で、今年度で約1000人の予定、今後3000人・各県最低1名を目標に展開しています。配管は3年目で現在1636人、登録制度前の基幹技能者が198人おり、その人たちが登録となって1785人となります。目標の3000人にはまだ遠い状況です。保温は2000人受講者資格者がいますが、60歳以上もかなりいて登録基幹技能者になっても年



配管出席者（右側）

齢制限で入場できない懸念があるという状況が報告されました。

また、登録基幹技能者の役割については、施工管理技士のどのような手助けをするのか、上級職長としてどのようなことをするのか——など具体的なものがはっきりせず、各業界ともゼネコン・サブコン・施工業者などの階層レベル、また、3団体業界を問わず、全国レベルで認識不足の感があることが明らかにされました。このため、「国土交通省の指針のようなものが必要ではないか」「われわれから登録基幹技能者をこのように活用すると提言し、国交省がそれを後押しするという構図が本来ではないか」などの意見が出さ

れ、今後、各団体の全国組織において、国交省と話し合ってもらうよう要望していくこととしました。それと並行し、3団体でもサブコン団体（大阪空気調和衛生工業協会）を交えた4団体で協議していくことを申し合わせました。

60～65歳労働者の現場就労問題については、次第に就労拒否が減少しつつある現状が報告されました。ゼネコンによっては、65歳までを「高齢者」と呼ばなくなっていることも判明しました。ただ、「高所作業はだめ」などの仕事の制限はあるという声も多く聞かれました。

建設現場での工具類の盗難事故は最近、各所で多発している状況が分かりました。とくに、高額（100～200万円）な機器の盗難が多く、コンテナに入れて置いても盗難に遭うというケースも報告されました。今後、動産保険で対応できるかどうか、研究していくこととしました。このほか、産業廃棄物問題についても意見・情報交換しました。



ダクト、保温保冷団体出席者（正面・右側）

サブコン・配管・ダクト・保温保冷の4団体協議会を開催

—第4回・第5回会合—

基幹技能者活用の道探る

当組合、近畿空調工業協同組合（ダクト工事、理事長増田岳史氏）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事、会長細見義征氏）とサブコン団体の大空衛事務局で組織する4団体協議会の第4回会合と第5回会合が7月と11月に開催され、配管、保温保冷、ダクトの登録基幹技能者の活用について話し合われました。

登録基幹技能者は、工事現場で一般技能者の作業を指揮・統率するとともに、技術者から提示された施工計画や技術上の指示内容について技術者に適切な施工方法を提案するなど作業管理能力のある「上級職長」に位置付けられています。当組合、ダクト、保温保冷



第4回会合

ら5時まで大空衛事務局で開催されました。会合では、まず3団体から大空衛サイドへ基幹技能者の活用を要望し、現状認識を求めました。大空衛サイドからは「現場で基幹技能者に何をしてもらうかが分からぬ」「どう活用していいか分からぬ」「活用のメリットがイメージできない」などといった意見が出されました。これを受け、3団体

即した基幹技能者のあり方を研究し、活用しやすい方法を模索していく考えを示しました。

第5回会合は11月9日午後3時から5時まで大空衛事務局で開催されました。第4回会合と同じく登録基幹技能者の扱いについて協議され、基幹技能者の役割を具体化するため、意見を出し合った結果、保温団体が作成した資料を基に残りの2つの団体からの項目を加えたらどうかということで大筋の一一致をみました。

意見交換では、「基幹技能者は普通の職長にはできない権限を付さなければならぬ仕組みを作りたい」「基幹技能者の氏名を現場に貼り出したらどうか」「ヘルメットに基幹技能者であることをラベル表示したらどうか」「サブコンは基幹技能者にどれだけのことを求めていいのか示してほしい」「基幹技能者がコスト管理を行うという役割を与えたたらどうか」「基幹技能者に仕事に見合った対価を与えるべき」——などの意見が出されました。



第5回会合

の3団体では、この登録基幹技能者をサブコン・ゼネコンなど工事発注サイドに認識・活用してもらうことで技能者のモラルアップを図り、工事品質の向上をめざしています。

第4回会合は7月26日午後3時か

側は、基幹技能者について「何ができるかできないかをはっきりさせる必要がある」「責任を持てる範囲を具体的かつ明確にしなければならない」「位置付けを今一度きちんとすると」として、今後、工事現場の実際に

日管連

第1回全国青年部会を開催

鋼管関連の3つの講演実施

日本ヒルティが製品デモ

当組合の上部団体・日本配管工業事業団体連合会（日管連）は10月22日に第1回全国青年部会を日本ヒルティ本社（神奈川県横浜市都筑区）で開催しました。部会には地方7団体から約50人が出席し、钢管関連で3題の講演を実施したほか、会場を提供した日本ヒルティが製品をデモンストレーションしました。

部会は日本ヒルティ社長アマン・マルコ氏のウェルカムスピーチと青年部会長山田栄二氏（関東配管工事業協同組合）の開会あいさつでスタート。山田部会長は、昨年までに各地組合に青年部会が組織され、部会長・副部会長を選任して全国青年部が誕生した経緯を説明しました。これを踏まえ、今回を第1回として気持ちを新た

に、日管連の活動理念「レベルアップでつなぐ豊かな私たちの明日」の実現に向け諸課題解決に取り組んでいく意欲を示しました。

講演は、第一高周波顧問井出浩司氏（I D E 研究所代表）による「標準仕様書の钢管規程（平成22年版公共建築工事標準仕様書の制定とその位置付け）」、住友金属钢管カンパニー钢管営業部東京钢管室担当課長西澤正士氏による「钢管の基礎知識（钢管製造法の違いと耐溝状腐食対策。水道用ポリ粉体ライニング钢管への転造ネジ接合の適用。フレア加工と管機つば出し钢管継手加工接合基準について）」、第一高周波技術統括部技術部長小林良治氏による「環境配管（フランジ付きポリ粉体ライニング钢管の特徴と環境にやさ



挨拶する山田栄二青年部会長



挨拶するアマン・マルコ日本ヒルティ社長

しい防食配管システムについて）」の3題で直近のトピックであるテーマをわかりやすく解説しました。

講演後、日本ヒルティが自社製品をデモンストレーションし高性能と使い勝手の良さ（バッテリの共通化など）とともに、静肃性への配慮や集塵装置の搭載など環境適合性の高さをアピールしました。



講義のもよう

兵庫県三田市で 登録配管基幹技能者講習を開催

登録配管基幹技能者を認定する平成22年度講習（後期）が近畿地区では1月27～29日の3日間、兵庫県三田市の三田建設技能研修センターで開催されました。

今年度の登録講習は前期と後期にわけて開催され、前期は関東、

九州（長崎）の両会場で昨年開催、後期は近畿、関東、東北（秋田）で開催。近畿地区会場では、当組合から講師・控えの講師として役員5名が出席、山中淳市事務局長も会場の準備・受付など管理員として出席する中、81名が受講

しました。登録講習の3日目には、当組合の玉川義光副理事長が「OJTとその進め方」「OJTの実践方法」、庄司真之理事が「OJTの実践演習」「ケーススタディ」の講座を受け持ちました。また、控えの講師を斎藤昭一理事長、池成信夫、中野広造両理事が務めました。なお、合格発表は3月下旬に行われる予定です。



技能実技講習に参加して

1級配管実技講習指導員 菅野泰行

11月中旬、組合事務局の山中さんより実技講習の手伝いの電話があり、もう喜寿になってと、一瞬迷ったが、私のような年でまだ役に立つかと嬉しくなって引き受けた。

12月18日当日、神戸の自宅から一番のバスで出かける。会場では開講式が始まっていたが、何とか指導員の紹介に間に合った。控室で役員の皆様方と1年ぶりの挨拶をし、午後からの実技講習の段取りを聞く。指導員の腕章を貰って巻くと気持がしゃんとする。

毎度のことだが、実技は昭和40年ごろに終わった手仕事の作業なので、道具の正しい使い方から説明がいる。昔々、金鶴勲章を貰ったような元気な職人さんから教わったことを今ごろ私が説明する。金切ノコは右手でこう持って鉄管に当て、手首は固定し肘と肩を前後に動かし、左手はノコの先を軽く持ちそえるようにしておくといい。たとえ現在あまり使われなくなった道具でも正しく使う基本を覚えてほしいと、先輩達から教わった作業の基本を伝える。こんな年になっても誰かの役に立つてい



技能指導に当たる菅野さん（右）

るかと思うと嬉しい。

鉄管を金切ノコで切断、手回しのネジ切機でネジを切り、予定の寸法にネジ込み、図面どおりに仕上げる。たぶん全員（30人余）初めての仕事なのだろう。当然なかなかはかどらない。

国家試験は、なぜこんな古い、ほとんど使われなくなった作業をいつまでも出題し続けるのだろう。なぜ現在の社会が必要としている技能を試さないのか。出題者側にも事情があるのだろうが、一考してほしいものである。だが翻って、受験者の側の彼等もこの1級配管技能士試験以外では使うことのない作業で、未知に挑戦する喜びを感じてほしいと思う。世の中、自分が思っているようなことがいつまでも続くとは限らない。そんなとき初めて取り組む事柄に対処する心構えの役に立つかも知れないと思う。5時の終了時間までに5、6人は水圧試験ができるかと思ったが、無理だった。時間切れで終わる。

翌19日、日曜日なので団地を一

番のバスでJR須磨駅へ出ても作業開始時間に少し遅れる。じっと作業を見て回り、金切ノコの使い方、ネジ切り油の差し方など気の付いたことをいろいろ指導して回る。毎度のことながら2日間の講習では全員合格は少し無理か。

仕上がっている人は仕上がっていいるが、作業のバラツキはどうしようもないと思え出す。作業手順にまごつきが見られる。そこで鉄管部分の作業に限って無駄なく作業ができるよう、細かく作業手順をメモし、必要だと思う人にそのコピーを渡す。約半分の人が取つてゆく。そして午後の試験本番と同じ作品制作の前、昼めしの間に読んでもらう。

そして、午後は新しい材料で本番と同じ作品を作ってもらう。試験時間3時間30分。夕方の時間内に80%ぐらいの人が作品を仕上げる。だが作品の出来はあまりよくない。特に水圧試験でVPのノリの付け忘れ、銅管ハンダ付けの不良など、どうしようもないのが4人ほどいる。試験までに何回練習してくれるか、その当たり前が大事なのだが、皆さん、受検生の健闘を祈るのみだ。

久しぶりに管工事に携わり、疲れているのに気持は高揚している。「来年も」と山中さんに言わされたのも嬉しい。



『一芸を極めるまでの繰り返し』

…泰行…

理事会 議事要旨

【22年7月】

- ①組合決算関係書類の提出並びに登記事項完了報告
- ②賛助会員からの組合脱退申し出の件
- ③平成21年度脱退組合員に対する出資払い戻しの件
- ④大空衛主催の第2回配管技能コンテスト応募者の当組合からの推薦の件
◇組合員から8社・8名が参加申し込み。
- ⑤大同生命保険(株)とのグループ保険共済制度の廃止検討
- ⑥その他
◇8月の定例理事会の休会

【22年9月】

- ①大空衛第4回4団体協議会出席報告
- ②大空衛主催第2回配管技能コンテスト結果報告
- ③日管連平成22年度第5回定期総会出席報告
◇7月15日に札幌市で開催され当組合から斎藤理事長、玉川・

立花・山田各副理事長、庄司理事（日管連役員・代議員）出席。

- ④日管連・平成22年度第1回全国青年部会開催に伴う関西組合からの出席者報告
◇関西組合青年部会から8名出席
- ⑤技能研修会開催要領作成の件
◇日管連理事会出席報告

【22年10月】

- ①平成22年度認定訓練1級配管科技能士コース修了報告
- ②平成23年新年賀詞交歓会開催日程と場所の検討
- ③第28回3団体懇談会開催に伴う当組合からの提案事項の検討
- ④平成22年度1級配管技能検定受験対策実技講習開催要領作成の件
- ⑤第1回組合員・賛助会員の合同懇談会開催要領作成の件
- ⑥その他
◇11月定期理事会開催日変更
◇平成22年度「登録配管基幹技能者講習」案内

【22年11月】

- ①守口高等職業技専校見学会開催に伴う参加申込者報告
- ②第28回3団体懇談会出席報告
- ③日管連理事会出席報告
◇当組合から斎藤理事長、玉川・立花両副理事長の3名出席。
- ④サブコン有志一同会・課長会との勉強会開催日程の定例化の件
- ⑤平成23年度認定職業訓練配管科1級技能士コースの実施計画作成の件
- ⑥平成23年新年賀詞交歓会開催要領作成の件
- ⑦第15回管工機材・設備総合展の後援名義の使用の件

【22年12月】

- ①第11回技術研修会終了報告
- ②第5回4団体協議会出席報告
- ③第1回組合員・賛助会員合同懇談会運営の打ち合わせ
- ④第3回サブコン有志一同会・課長会との勉強会開催の件
- ⑤「動産総合保険」の案内

大空衛主催

第2回配管コンテストに参画

組合は、8月28日に東大阪市の大阪府立東大阪高等職業技術専門校（テクノセンター東大阪）で開催された大阪空気調和衛生工業協会主催の第2回配管技能コンテス

トに選手を多数派遣するなどで参画しました。

コンテストは昨年の第1回と同様に現場の第一線で活躍する配管技能者を「一般の部」、建築設備



猛暑の中、課題作品の制作に臨む



一般の部上位入賞者（前列）

関連の学科を履修中の高校生徒を「高校の部」として実施されました。27人の一般技能者と14人の高校生が参加し、一般は1級技能士検定レベルの課題作品制作（制限時間3時間）に、高校生は同3級レベルの課題作品制作（同2時間30分）に臨みました。

一般の部では宮川秀夫氏（岩本工業所）が見事優勝、準優勝は古家宣照氏（中道設備工業）、3位は中村秀雄氏（東和管工）でした。高校の部では伊藤綾馬さん（布施工科高校）が接戦を制して優勝し、準優勝は梅北拓さん（同）、3位は八代健太さん（東住吉総合高校）でした。

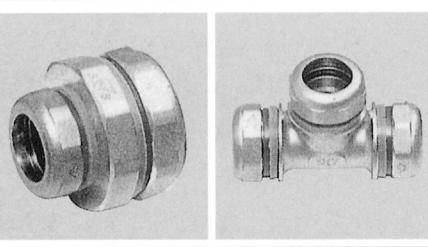
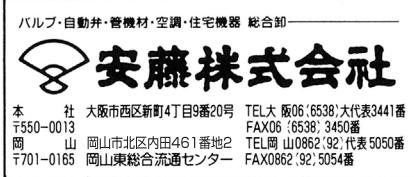
「適正」

をお届けします。



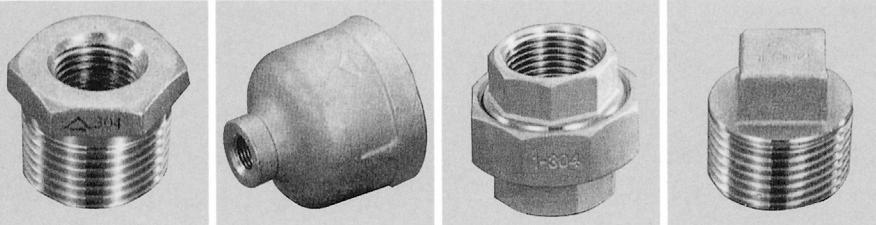
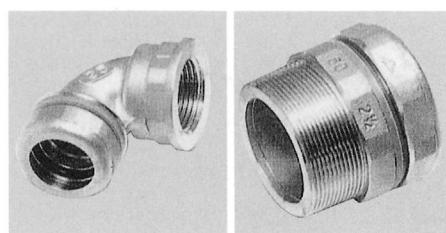
バルブ(BC・FC・コアタイト…)

建築技術の進歩と共に、設備工事における配管施工の技術の革新も大きく進歩しています。安藤株式会社は、多種多様な用途別ラインごとに適正な機種の選択をして、適正な商品をお届けする事を使命と考えております。



ステンレス製品

メカニカル式管継手
サスフィット 拡管式
ねじ込み継手



 株式会社 吉年

本社・工場 〒586-8528 大阪府河内長野市上原西町16-1
TEL:0721(53)3121 FAX:0721(54)1814
東京支店 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-11
TEL:03(5297)8221 FAX:03(5297)8222

印管継手

給水・給湯・冷温水に!! 2つのSUS管用継手登場!

 Materials Magic

ワンタッチ式

SUSDAKE(サスダケ)

新製品!



・印管継手

・管端防食管継手 PQWK

・日立カップリング継手 オメガシリーズ

・日立密閉型膨張タンクシリーズ

・ウォーターハンマ防止器

 日立金属株式会社

関西支店

〒541-0041

大阪市中央区北浜3-5-29(日生淀屋橋ビル)

TEL:06-6203-9704 FAX:06-6202-0730

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

HITACHI